

山麓もよう

交流の家周辺の体験情報をご紹介します！

【赤城神社】

<http://akagijinja.jp/>

赤城神社は主祭神として赤城山と湖の神様「赤城大明神」を祀る神社です。

全国に約300社以上あるといわれる赤城神社のうち、赤城山頂の大洞赤城神社、山腹の三夜沢赤城神社、二ノ宮町にある二宮赤城神社の三社が本社とされています。

大洞の赤城神社は境内から湖畔を望む眺望がよく、三夜沢赤城神社では県の天然記念物指定されている俵

(たわら) 杉をはじめとした木々の中での散策が、二宮赤城神社では中世の遺構である堀と土塁の観察ができるという具合に、三社それぞれ見所があります。春夏秋冬において自然や歴史に親しむことができる赤城神社、機会がありましたら訪れてみてはいかがでしょうか。(文：森田)



大沼横に佇む神社は本当に神秘的です

■所要時間: 交流の家から車で約40分 ■住所: 群馬県前橋市富士見町赤城山4-2
■TEL: 027-287-8202
※冬季は積雪、凍結箇所がありますので、冬季用タイヤの車でお越しください。

つぶやき田

【テーマ:自由にひとこと】

- 赤城で4度目の新年だなぁとしみじみ。色んな意味でそわそわします。あっ前回の予言も気になるなあ。(中屋)
- そろそろカリン酒を漬ける季節がやってまいりました。電子レンジで適度に加熱すると切るのが楽でよいです。(森田)
- 初日の出のご来光を水沢山で迎えました。寒くて眠いけど感動的な体験でした。(原田)
- 子育てに祖父母の協力は必須。日常担当の嫁の親と非日常担当のうちの親。どちらにも敬意と感謝でいっぱいです。(木暮)
- 今年こそはと願いを込めても1年が短く感じる年齢ですが、その繰り返しでも1歩先を目指して進みます。(松崎)
- 今年は、たくさんの目標を立てました。”数打ちゃ当たる”方式です。(杉浦)
- 新年早々、家庭内でインフルエンザ蔓延、宝くじ2組違いで大金を逃す…。厄年に負けないぞ!!(根岸)
- お酒を控えます！健康的に痩せます！無駄遣いをせず節約します！…という夢を見ましたm(_ _)m(江原)
- 大沼で雪遊び。凍った沼の上を歩くのは人生初なので感動！新しいことをして、まだまだトキメキたいな。(川崎)
- ここ数年悩まされていたしもやけに今年はまだ罹っていません。赤城の自然に少しは鍛えられたのでしょうか？(織間)
- Aたご。Aかぎ。そして…。移動する先には必ずAがつく。それでも俺はB型(井上)
- コンビニまで歩いたら、真冬にもかかわらず満開の花を見つけました。車に慣れると見つからなかったかも。(山田)
- 前橋市内から交流の家がどの辺に見えるのか、やっと判った気がします。今度双眼鏡で確かめてみようと思います。(手島)
- 新年を迎え、自分の今年の漢字一文字は「氣」。気分一新、新たな気持ちで臨みたいです。何事も気を付けていきたいです。(根本)
- 26年度も残り少なくなり、振り返ってみればやり残しが、あるわあるわ。来年度は、しっかりやらなくちゃー(佐藤)
- 厄が終わって新たな1年。丸まってしまっただらしない身体の改造計画。自転車で、泳いで、歩いて、スキーで。そう、計画。(小川)
- いつかくる、きっとくる、また大雪がふるものだと思って冬支度。備えあれば憂いなし。(高瀬)
- 一昨日ラーメン、昨日もラーメン、今日もラーメン。流行りは「みそ」です。(落合)
- 国立赤城に勤めて、もうすぐ1年になります。県内の外出先で赤城山を眺めるのが、すっかり楽しみになりました。(高橋)
- 植えてみたい「木」があるけど、巨大化してゆくことを考えると…家族は反対かな。(鈴木)
- 小2の息子と親子マラソン2kmに出ました。去年は余裕だったのに、今年は負けてしまった…。(新井)
- 今年の漢字は「縁」だと決めたが、「円」、性格をまるくするのにも必要だなあ。(黛)

風と太陽のくにからの通信誌

カラゴロリ

2-3
2015



「メタセコイヤ」

みなさん、メタセコイヤが「生きてる化石」と呼ばれていることを知っていましたか？

化石でしか見つからなかった木が「メタセコイヤ」と名がついてから数年後、中国で生きていることが確認され、その木から種を取って、日本各地へ植えられたそうです。

公園や学校などでよく見かける植物にそんな歴史があることを知ると、見方も変わってきませんか。

次号は、
4月1日発行予定!

風のおと

『青年教育』

ここ『国立赤城青少年交流の家』は、平成18年まで『国立赤城青年の家』という名称でした。

詳細な変遷は省略いたしますが、青年教育の拠点になるべく「青年に欠けている責任感やモラルを体得する集団宿泊訓練の場」として、開所当初は勤労青年の利用も多く、青年学級のリーダー養成事業なども盛んに行われていました。

大学進学率が50%を超えた現在、「青年教育」や“勤労青年”という言葉は死語になってしまいました。もちろん大学や企業がそれを全て担うには無理があります。

青年教育が社会教育の隙間に落ちてしまい、地域社会とほとんど

関わりを持たない大学生や企業青年が多いというのが実情です。

日本中を見渡しても青年団や祭りが地域の若者を育てているのは、ごく一部になってしまいました。

そこで、施設の多機能化を考える上でも、今こそ青年教育に光を当て大学や企業と交流の家が協働してプログラムを進めていくことが急務だと感じているこの頃です。

まずは、若者同士と一緒に食事をして、仲間と風呂に入り、同じ部屋で寝起きをすることから始めてみてはどうでしょう。

所長 杉浦俊之

『赤城に思うこと』

リレーcolumn
すたっぷの目

文: 松崎 順平
【まつざき じゅんぺい】



福島県出身の松崎次長。
「前橋の豚肉は最高!!」

赤城のある群馬県、まわりの県に囲まれた「海なし県」でも眼下に広がる関東平野、関東1都6県で唯一の国立青少年交流の家です。

赤城の特徴だと思っていますが、まず春は日差しがまぶしく雪山と若葉が一層映える季節、夏はなぜか日本一と思える暑さ、秋には赤城山から降りてくる紅葉前線、最後に冬は乾燥した「からっ風」でたまに雪も降り、四季の変化がはっきりしていていつでも楽しめます。

ここには多くの団体が体験活動に訪れ、四季折々の活動が展開され賑わっていますが、どうしても11月から2月の寒い時期は利用者が少ない現状です。

利用可能な施設があつて職員や指導者がいつでも皆さんをお迎えする体制を整えておりますので、寒い時期でも利用してはいかがでしょうか。

「交流の家HP」
「Facebook」で
当所の情報を更新中

体験の風を
おこそう



国立赤城青少年交流の家 <http://akagi.niye.go.jp/>

TEL:027-289-7224(9:00~18:00)

FAX:027-289-7226

あかぎ カラゴロリ

検索

〒371-0101 群馬県前橋市富士見町赤城山27

E-mail:akagi@niye.go.jp



ここで出会った新しい仲間と中学へ!!

このキャンプは、前橋市富士見地区にある4つの小学校の6年生を対象に3泊4日で行われました。仲間との共同生活による様々な体験（生活体験や自然体験）を通し、中学校へ進学する前に他校の仲間たちとの関係を深めることを目的に行われました。



また、このキャンプの企画運営は、交流の家を含む富士見地区の子どもたちの育成に関わる団体（教育委員会・公民館・PTA・教育施設・ボランティア団体・NPO法人など）が連携協力して行いました。（文部科学省「子供と

自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業」の委託事業）

今回は通学合宿という形式をとったため、子どもたちは木曜日に家庭から大きな荷物を持ってそれぞれの学校に登校し、放課後、迎いのバスにより交流の家に入所。仲間と一緒に食事や宿題、入浴を済ませ、大部屋で就寝。金曜日の朝は交流の家から「行ってきます！」とそれぞれの学校にバスで登校し、放課後迎いのバスで「ただいま！」と交流の家に帰宅しました。週末は前橋市赤城少年自然の家に移り、グループごとに様々な自然体験活動にチャレンジし、仲間との絆を深めました。



通学合宿は、通常のキャンプのような非日常的な世界での体験だけでなく、登下校や宿題、食事、入浴、睡眠、身支度など、日常生活の部分にも変化が加わることとなり、今まで当たり前で意識していなかったことに自然に



H26 国立赤城青少年交流の家 教育事業
ふじみフレンドシップキャンプ(通学合宿)

意識が向かいます。そして同世代の仲間との共同生活は、時には自他を比較し、時には協力し、それらを通して意識の変革が顕著に見られるようになります。今回のキャンプでも、子どもたちは新たな仲間を作るとともに、内面的にも大きな成長が見られ、中学校への進学を楽しみになったようです。（文：根岸）



キャンプのスケジュール

- ①日目 学校からバスに乗って国立赤城青少年交流の家へ
開会式・交流プログラム・宿題タイム
- ②日目 国立赤城青少年交流の家からバスに乗って学校へ
宿題タイム・選択プログラム決め
- ③日目 国立赤城青少年交流の家から赤城少年自然の家へ
選択プログラム・キャンプファイヤー
- ④日目 赤城少年自然の家から各小学校へ
グループチャレンジ・ふりかえり・閉会式

プログラム紹介!



【キャンドルファイヤー】

キャンドルファイヤーは、参加者がろうそくの灯りを囲んで一同に集い、仲間との気持ちをさらに一歩近づけるものです。

屋外でのキャンプファイヤーの大きな炎のような迫力はありませんが、小さくて静かに燃えるキャンドルの火は、心を清らかにしてくれます。そしてその火は深く心に刻み込まれます。神聖な雰囲気をつくるには、キャンプファイヤー以上の効果があります。

また、屋内での実施のため、気象条件に左右されることなく、声も通りやすいため、参加者の集中力を保ちやすいという利点があります。当施設にはキャンドルファイヤーを行える場所が4ヶ所あり、全てにろうそくを立てる燭台があり、利用いただけます。

慌ただしさを忘れ、揺れるろうそくを見つめながら自己をふりかえるのにかかでしょうか？

（文：根本）



燭台の上で揺れるろうそくに心癒されます

国立赤城青少年交流の家で活躍する、非常勤講師やボランティアの方をご紹介します

この人に会いたい

●国立赤城青少年交流の家 研修指導員(自然観察)

須田 けいさん



須田さんは、交流の家の自然観察の講師です。交流の家の周辺はもちろん、関東近辺の自然に詳しく、様々な活動をされています。植物の知識が豊富で、「知らない花はないのでは？」と思うほどです。

自然観察以外にも写真が趣味で、撮りためた写真は30年分、枚数は数えきれないそうです。また、交流の家に遠足に来た幼稚園・保育園の子どもたちの活動に顔をだし、「すうさん」の愛称で慕われています。

たくさん知識を持っているにも関わらず、自分からは植物の知識を話しません。その時集まった参加者に合わせて、森の中を歩き、その時に気になった植物について教えてくれます。

植物だけではなく、自然の中にいる動物や鳥の鳴き声にも詳しく、「すうさん」と一緒に歩くと、交流の家の自然をまるごと味わうことができます。

赤城青少年交流の家で「すうさん」と出会う機会があったら、いろんな話をしてみてください。（文：山田）

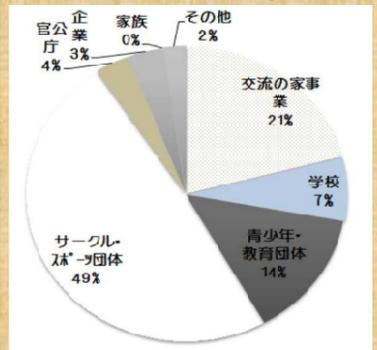


『木の葉隠れの術』撮影:すうさん

利用のようす(12~1月)



- 12月の利用者数
...4,586人
48団体
- 1月の利用者数
...2,584人
38団体



施設周辺の植物など

赤城大沼は結氷し、ワカサギ釣りのテントが花を咲かせています。施設周辺の木々もじっと春が来るのを待っています。冬の自然の楽しみ方の一つにそんな木々の冬芽(とうが)と葉痕(ようこん)の観察があります。

冬芽とは、春に葉や花になる所で木によって特徴があります。モクレンは毛皮のコートを着ているようです。トチノキはべたべたして、たまにうっかりしたアリさんが捕まっていることもあります。

葉痕とは葉が落ちた後です。クズは顔のようでユニークです。タラの木はネックレスのようになっています。

皆さんも木々の面白い表情を探して冬の散歩を楽しんでみませんか？



(文:小川) これはサンショウ。面白い表情をしています

野外活動における・リスクマネジメント 入門編 第8回

今回は防寒対策について取り上げます。冬の赤城は寒いです。寒いのですが、正しい装備衣服の調整をすれば、外でも十分に活動出来ます。そのノウハウをお伝えします。

衣服で大切なのは、レイヤードシステムという考え方です。厚いものを着込むよりは、薄いものを重ねて着る方が防寒には効果的です。保温性の高い下着、あたたかい空気を含むことが出来るフリースやセーターなどを中間に、防風効果のあるウインドブレーカーやジャケットなどをアウター(外着)にします。この基本をおさえた着方をすることで十分保温出来ます。

これ以外に、帽子、手袋、マフラー(ネックウォーマー)、レッグウォーマーなど肌の露出をしないよう、部分的に保温します。末端が冷えやすい女性は手袋や靴下を二重にすればさらに効果的です。「厚い洋服より薄くても効果的な重ね着」で、冬のアウトドアもお楽しみください。（文：高瀬）

これからの動き

下記の事業の詳細はこちらまでお問合せください ⇒TEL027-289-7224(国立赤城青少年交流の家) ☎



■グローアップキャンプ

2/6(金)~8(日) 2泊3日

児童養護施設の子どもたちを対象に規則正しい生活習慣や自立する力を身につけるためのキャンプです。

■スポーツ交流デー

*バスケ*小学生対象

2月7日(土)~8日(日)

*ソフト*中学生対象

3月7日(土)~8日(日)

スポーツを通して、県内外の小中学生が交流を深める事業です。

■自然体験フォーラム

2/14(土)~15(日) 1泊2日

キーワードは「想いでつながる、そしてはじまる」自然体験に関わっている方だけではなく、これから関わりたいと思っている方が赤城に集まり、新たな繋がりをつくるフォーラムです。



■初めての登山教室

3月7日(土)~8日(日)

赤城の自然に触れたり、一緒に食事を作ったりする中で、事業後も引き続き付き合っている仲間づくりを目指す事業です。